

# 第45期

# 事業報告書

平成14年10月1日から平成15年9月30日まで



## CONTENTS

- 業績ハイライト…………… 1
- ごあいさつ…………… 2
- セグメント情報…………… 3
- トピックス…………… 4
- 連結財務諸表…………… 5
- 単体財務諸表…………… 7
- 特集[OBARAの製品]…………… 8
- グローバル・ネットワーク…………… 9
- 会社概要・株式の状況…………… 10

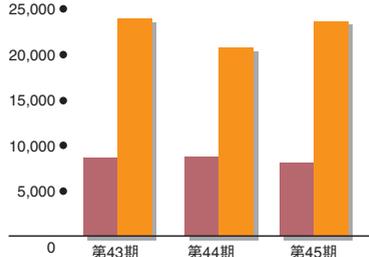
**JL** OBARA株式会社

証券コード：6877

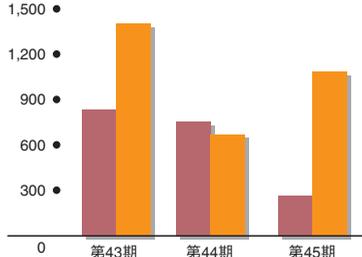
# 業績ハイライト

■ 単体 ■ 連結

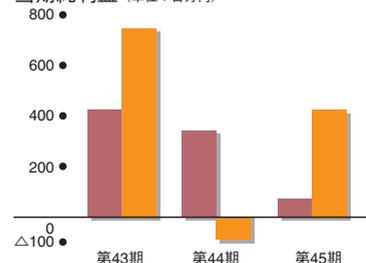
売上高 (単位: 百万円)



経常利益 (単位: 百万円)

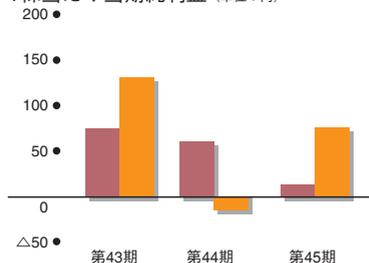


当期純利益 (単位: 百万円)

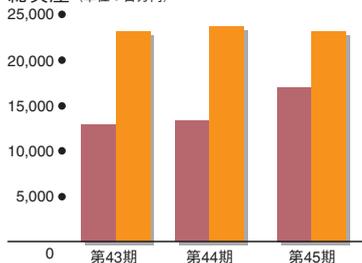


		第43期 平成12年10月1日から 平成13年9月30日まで	第44期 平成13年10月1日から 平成14年9月30日まで	第45期 平成14年10月1日から 平成15年9月30日まで
売上高 (百万円)	単体	8,691	8,889	8,169
	連結	23,914	20,723	23,716
経常利益 (百万円)	単体	837	750	262
	連結	1,401	670	1,088
当期純利益 (△は当期純損失) (百万円)	単体	424	342	70
	連結	749	△91	426

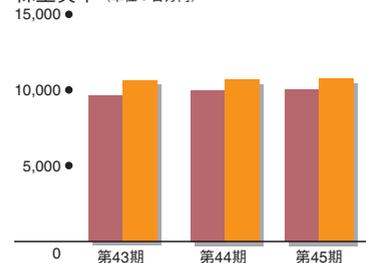
1株当たり当期純利益 (単位: 円)



総資産 (単位: 百万円)



株主資本 (単位: 百万円)



		第43期 平成13年9月30日現在	第44期 平成14年9月30日現在	第45期 平成15年9月30日現在
1株当たり当期純利益 (△は1株当たり当期純損失) (円)	単体	73.69	60.20	12.43
	連結	129.97	△16.16	75.07
総資産 (百万円)	単体	12,882	13,295	16,954
	連結	23,137	23,619	23,027
株主資本 (百万円)	単体	9,653	9,998	10,038
	連結	10,655	10,681	10,732



株主の皆様には、日頃より温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。

「お客様の必要な時に、お客様の満足する良い品質の製品をお届けする」ことを当社グループの理念に、それぞれが専門分野で市場に永続的に評価されるよう各グループ企業とも努力しております。

当社グループの企業価値は、お客様に待ち望まれる製品・サービスを供給し続けることで向上するものであるとの考えに立ち、独自の事業分野で創造性を発揮し、成果を社会に送り出し、変化する市場において競争力を維持・拡大していきたいと考えております。

海外の主要な市場に生産拠点を展開している強みも最大限に発揮し、当社グループ一体となってグローバルな事業展開に全力を尽くす所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年12月

代表取締役社長 **春名邦芳**

## ■ 営業の概況

当期における世界経済は、米国及びアジア地域を中心として経済指標の改善がみられ、景気回復の兆しを強めながら推移いたしました。一方、わが国経済は、株式市場の活況や景気指数の改善傾向がみられましたが、民間設備投資は未だ足踏み状態であり、個人消費も低迷を続けるなど、全般的には景気は引き続き弱い基調のうちに推移いたしました。

自動車業界（抵抗溶接機器関連事業）においては、納入価格の引き下げなど厳しい要求があったものの、新車投入やモデルチェンジが旺盛で世界的に設備投資は堅調に推移しました。また、半導体業界（平面研磨装置関連事業）においては、一部には回復の兆しはみられたものの、全般的に設備投資は依然として低迷を余儀なくされ、企業を取り巻く環境は厳しいものとなりました。

このような経営環境の中であって、当社グループは売上高及び利益の確保を図るべく販路拡大に注力し、顧客のニーズに合致した商品の供給に努めました。また、同業他社との差別化を明確にすべくグローバルネットワークの強化策をさらに推し進め、中国上海新工場の稼働開始をはじめ、米国シンシナティ工場での能力増強、豪州新会社設立による販路拡大と世界市場での幅広い生産、販売、サービス体制を充実させる事に注力しました。一方で、利益を重視した企業体質の強化を継続的におこない、経営資源の有効活用を念頭にいた合理化策を継続的に進めてまいりました。

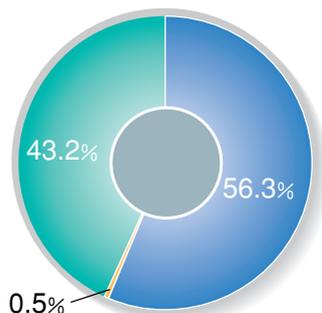
この結果、当期連結の売上高は、237億16百万円（前期比29億93百万円増）となり、経常利益は10億88百万円（前期比4億17百万円増）、当期純利益は4億26百万円（前期比5億18百万円増）となりました。

今後の経済見通しにつきましては、民間設備投資は依然として不透明感がみられ、本格的な回復にはなお時間を要するものと想定されます。このような状況下にあっても当社グループは、当面の利益を確保しつつ、次世代を睨んだ製品の開発に注力するとともに、グローバルな見地から将来の発展につながる事業の芽を迅速に推進してまいります。

今後も当社グループは自動車産業とIT産業という二大基幹産業に寄与すべく、ともに独自の技術を生かした事業の発展を図ってまいります。

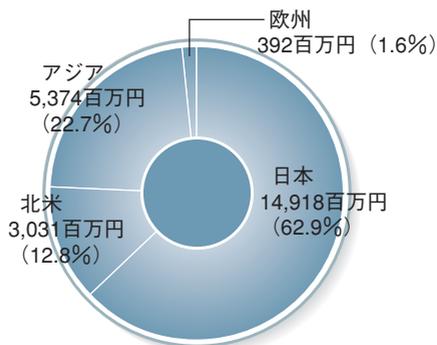
なお、今期における通期の連結売上高は前期比2.0%増の242億円、連結経常利益は前期比28.6%増の14億円、連結当期純利益は前期比87.5%増の8億円を見込んでおります。

## ■ 事業の種類別セグメント売上高



- 抵抗溶接機器関連事業  
……………13,349百万円 (56.3%)
- レーザー溶接機器関連事業  
……………129百万円 (0.5%)
- 平面研磨装置関連事業  
……………10,237百万円 (43.2%)

## ■ 所在地別セグメント売上高



## 抵抗溶接機器関連事業

抵抗溶接機器関連事業においては、ユーザーからの厳しい価格低減要求などの難題はあるものの、世界的な自動車産業の好調を背景に受注は好調に推移いたしました。今後も当社グループの強みであるグローバル戦略の拡大を始めとするバランスのとれた経営資源の投入を図る一方で、コスト低減・競争力強化に努め、業界No.1のOBARAブランドをグローバルに発揮してまいります。



## レーザー溶接機器関連事業

レーザー溶接機器関連事業においては、市場を取り巻く環境には回復の兆しはみられたものの、設備投資にはなお慎重なユーザーが多く、受注の大きな回復には至りませんでした。このような厳しい経営環境の中、当社グループは販売対象業態の拡大を図るべく複数製品・新機種開発に注力し、将来の事業拡大に向けての諸施策に注力してまいりました。今後も一層の競争力強化を図り幅広い分野での受注拡大に努めてまいります。



## 平面研磨装置関連事業

平面研磨装置関連事業においては、LSIを始めとする半導体需要の回復基調の中、シリコンウェーハ加工研磨装置は、納期・価格に対する市場ニーズに適応した製品展開を進め、装置出荷の動向に明るい兆しがみえてきております。また、移動体通信の高度化・拡大化の流れなどを受け、薄物ウェーハ加工研磨装置もユーザー要求の細部に応えた熟成化を進め、ユーザーから好評をいただいております。今後とも国内外を通じ、ユーザーからの信頼に添えるべく、市場ニーズを先取りした装置・消耗品・サービス内容の充実と、販売・供給体制の強化を一層推進してまいります。



社屋外観



調印式

## 豪州新会社設立 OBARA AUSTRALIA PTY.LTD.

当社は予てより、豪州大陸市場へは代理店（豪ENIG社）を通じて販売を展開しておりましたが、豪亜地域における需要の成長性を鑑み、グローバル供給・技術拠点としての体制を強化することを目的として、平成15年8月25日にOBARA AUSTRALIA PTY. LTD.を設立するとともに、平成15年10月1日付けにて、豪ENIG社から全事業と資産を譲受ける事に合意し、豪州市場における直接販売活動を開始いたしました。今後は自動車業界への技術サポート面を整備充実させ、豪州市場における販売シェア拡大を目指してまいります。

## スピードファム株式会社 製品紹介「ストリームエッジ」

シリコンウェーハ基板に回路を形成するデバイス前工程での、微細な配線ルールや銅配線技術などに伴う加工プロセスの高度化を補完する装置として、ストリームエッジ（エッジ研磨装置）を提供する体制を整えております。従来の加工プロセスでの、異物・残膜等の除去性能を飛躍的に上回る、画期的なメカノケミカル・プロセスにより、デバイスチップの歩留り向上（良品率向上）へ効果的に寄与する装置と考えております。

ストリームエッジを平面研磨装置と並んで新たな事業の柱となる装置として位置付け、開発・販売に注力してまいります。



EDP-300X

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当連結会計年度末 (平成15年9月30日現在)	前連結会計年度末 (平成14年9月30日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	13,310,701	13,778,557
現金及び預金	2,840,235	3,283,476
受取手形及び売掛金	6,553,676	6,044,776
有価証券	80,434	213,738
たな卸資産	3,309,720	3,753,462
繰延税金資産	175,729	108,781
その他	484,160	470,113
貸倒引当金	△133,255	△95,790
固定資産	9,716,364	9,840,815
有形固定資産	7,488,959	7,454,090
建物及び構築物	2,741,486	2,470,702
機械装置及び運搬具	1,394,876	1,567,338
土地	3,124,789	3,135,278
建設仮勘定	41,704	86,208
その他	186,103	194,562
無形固定資産	249,968	438,461
投資その他の資産	1,977,435	1,948,263
投資有価証券	1,062,781	905,906
長期貸付金	56,131	80,077
繰延税金資産	19,077	235,004
その他	1,081,779	847,309
貸倒引当金	△242,334	△120,034
資産合計	23,027,065	23,619,372

■現金及び預金、有価証券が減少したため、流動資産は前期末比3.4%減となりました。

(単位：千円)

科目	当連結会計年度末 (平成15年9月30日現在)	前連結会計年度末 (平成14年9月30日現在)
<b>負債の部</b>		
流動負債	9,033,498	9,726,460
支払手形及び買掛金	3,503,227	3,837,359
短期借入金	3,057,921	4,210,758
1年以内償還予定社債	660,000	—
1年以内返済予定長期借入金	414,815	390,871
未払法人税等	192,473	102,295
賞与引当金	358,436	354,322
繰延税金負債	—	551
その他	846,622	830,301
固定負債	2,985,748	2,982,498
社債	1,060,000	800,000
長期借入金	593,979	743,453
退職給付引当金	157,172	241,133
役員退職慰労引当金	961,087	1,001,517
繰延税金負債	197,490	179,758
その他	16,017	16,634
負債合計	12,019,246	12,708,959
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	275,768	228,795
<b>資本の部</b>		
資本金	1,450,449	1,450,449
資本剰余金	1,895,998	1,895,998
利益剰余金	7,941,198	7,630,190
その他有価証券評価差額金	65,242	△40,391
為替換算調整勘定	△620,822	△254,613
自己株式	△15	△15
資本合計	10,732,050	10,681,618
負債、少数株主持分及び資本合計	23,027,065	23,619,372

■グループファイナンスの導入に伴い社債を1,000,000千円発行し借入金の返済を行った結果、有利子負債が358,365千円減少しました。

グループファイナンスとは…

グループ会社の資金調達を親会社である当社に一本化し、当社の信用で低コストの資金調達を行うとともにグループ会社の余資を活用しグループ全体の借入額の圧縮と支払利息の削減を図るものです。

## 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当連結会計年度 (平成14年10月1日から 平成15年9月30日まで)	前連結会計年度 (平成13年10月1日から 平成14年9月30日まで)
売上高	23,716,785	20,723,520
売上原価	17,551,542	15,215,273
売上総利益	6,165,243	5,508,247
販売費及び一般管理費	5,138,400	5,037,387
営業利益	1,026,843	470,859
営業外収益	226,675	341,907
受取利息	45,485	43,186
受取配当金	5,605	6,937
受取地代家賃	100,821	116,126
為替差益	—	85,457
その他	74,762	90,199
営業外費用	165,190	141,828
支払利息	62,661	69,881
為替差損	52,344	—
貸与資産償却費	12,844	18,134
その他	37,340	53,812
経常利益	1,088,327	670,938
特別利益	101,709	6,917
固定資産売却益	851	6,917
役員退職慰労引当金戻入益	100,858	—
特別損失	94,982	393,900
固定資産処分損	84,898	33,249
固定資産評価損	—	159,551
投資有価証券評価損	2,027	183,935
会員権評価損	8,056	17,164
税金等調整前当期純利益	1,095,055	283,954
法人税、住民税及び事業税	459,448	410,226
法人税等調整額	138,806	△86,250
少数株主利益	70,093	51,867
当期純利益(△は当期純損失)	426,706	△91,888

■各セグメントとも売上高は前期比プラスとなりました。中でも平面研磨装置関連事業セグメントの売上高は前期比33.9% (2,592,457千円) 増となり、連結売上高は前期比14.4%増となりましたが、営業外損益では、円高による為替の影響で52,344千円の為替差損(前期は為替差益85,457千円)が発生した結果当期純利益は426,706千円となりました。

## 連結剰余金計算書

(単位：千円)

科目	当連結会計年度 (平成14年10月1日から 平成15年9月30日まで)	前連結会計年度 (平成13年10月1日から 平成14年9月30日まで)
<b>資本剰余金の部</b>		
資本剰余金期首残高	1,895,998	1,895,998
資本剰余金期末残高	1,895,998	1,895,998
<b>利益剰余金の部</b>		
利益剰余金期首残高	7,630,190	7,838,924
利益剰余金増加高	426,706	—
当期純利益	426,706	—
利益剰余金減少高	115,698	208,734
配当金	113,670	113,670
従業員配当	2,028	3,175
当期純損失	—	91,888
利益剰余金期末残高	7,941,198	7,630,190

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当連結会計年度 (平成14年10月1日から 平成15年9月30日まで)	前連結会計年度 (平成13年10月1日から 平成14年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	919,352	362,687
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,102,854	△155,648
財務活動によるキャッシュ・フロー	△471,922	791,235
現金及び現金同等物に係る換算差額	△83,146	△18,411
現金及び現金同等物の増減額	△738,571	979,862
現金及び現金同等物の期首残高	2,531,795	1,551,932
現金及び現金同等物の期末残高	1,793,223	2,531,795

■当連結会計期間における現金及び現金同等物は、営業活動により919,352千円増加しましたが、有形固定資産の取得による支出901,051千円、借入金の返済による支出1,264,296千円、社債の発行による収入1,000,000千円等により前期末残高に比べて738,571千円の減少となりました。

以上の結果、当連結会計年度末残高は1,793,223千円となりました。

# 単体財務諸表

## 貸借対照表

(単位：千円)

科目	当 期 (平成15年9月30日現在)	前 期 (平成14年9月30日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	8,715,730	5,189,992
現金及び預金	357,794	1,065,929
受取手形・売掛金	2,537,248	2,587,151
たな卸資産	1,041,837	1,189,624
短期貸付金	4,353,397	77,447
未収入金	268,994	214,539
その他	160,832	94,786
貸倒引当金	△4,374	△39,487
<b>固定資産</b>	8,238,771	8,105,806
<b>有形固定資産</b>	2,823,470	2,854,991
建物・構築物	1,010,449	1,099,363
機械装置	424,960	362,713
土地	1,284,831	1,284,831
その他	103,228	108,083
<b>無形固定資産</b>	34,096	37,988
投資その他の資産	5,381,205	5,212,825
投資有価証券	801,758	670,582
関係会社株式・出資金	4,043,042	3,831,858
その他	607,746	812,503
貸倒引当金	△71,342	△102,118
<b>資産合計</b>	16,954,502	13,295,799
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	5,089,588	1,878,064
支払手形・買掛金	1,046,334	1,282,004
短期借入金	2,800,000	—
1年以内返済予定長期借入金・1年以内償還予定社債	760,000	—
その他	483,253	596,059
<b>固定負債</b>	1,825,925	1,418,787
社債・長期借入金	960,000	500,000
退職給付引当金	7,438	95,197
役員退職慰労引当金	848,332	813,435
その他	10,155	10,155
<b>負債合計</b>	6,915,514	3,296,851
<b>資本の部</b>		
資本金	1,450,449	1,450,449
資本剰余金	1,895,998	1,895,998
資本準備金	1,895,998	1,895,998
利益剰余金	6,636,665	6,679,684
利益準備金	126,903	126,903
任意積立金	6,001,019	5,802,438
特別償却準備金	1,019	2,438
別途積立金	6,000,000	5,800,000
当期末処分利益	508,741	750,341
株式等評価差額金	55,890	△27,169
自己株式	△15	△15
<b>資本合計</b>	10,038,988	9,998,947
<b>負債資本合計</b>	16,954,502	13,295,799

## 損益計算書

(単位：千円)

科目	当 期 (平成14年10月1日から 平成15年9月30日まで)	前 期 (平成13年10月1日から 平成14年9月30日まで)
<b>経常損益の部</b>		
<b>営業損益の部</b>		
営業収益	8,169,299	8,889,114
売上高	8,169,299	8,889,114
営業費用	8,056,340	8,336,496
売上原価	6,276,720	6,553,968
販売費及び一般管理費	1,779,619	1,782,527
営業利益	112,958	552,618
<b>営業外損益の部</b>		
営業外収益	208,288	214,524
営業外費用	59,246	16,869
経常利益	262,001	750,273
<b>特別損益の部</b>		
特別利益	194	12
特別損失	45,803	296,255
税引前当期純利益	216,391	454,030
法人税、住民税及び事業税	18,303	200,558
法人税等調整額	127,436	△88,701
当期純利益	70,650	342,173
前期繰越利益	494,925	465,003
中間配当額	56,835	56,835
当期末処分利益	508,741	750,341

## 利益処分

(単位：千円)

科目	当 期	前 期
当期末処分利益	508,741,325	750,341,605
任意積立金取崩額	642,882	1,418,941
特別償却準備金取崩額	642,882	1,418,941
合 計	509,384,207	751,760,546
これを下記のとおり処分いたします。		
配当金	56,835,000	56,835,000
(1株につき10円)		
任意積立金	—	200,000,000
別途積立金	—	200,000,000
次期繰越利益	452,549,207	494,925,546

# 国内シェア65%\*の主力製品「ガン」 世界市場に向け積極展開

\*当社推定

抵抗溶接とは、金属板を挟んで加圧力(200～500kg)を与え、大電流(6,000～15,000A)を一定時間通電し、この時発生する電気抵抗発熱により材料を溶かして圧着する仕組みです。主に薄板を使用する自動車ボディには最適な溶接方法であり、当社グループの主力製品である「ガン」は国内シェア約65%(当社推定)を確保しております。既に世界各国でも高い評価をいただいております。今後も抵抗溶接機器関連事業の主力製品として世界市場におけるOBARAブランドの拡大を積極的に展開してまいります。



## 製品紹介



### サーボロボットガン

本ガンは、電動加圧方式を採用した新機軸の高性能抵抗溶接用のガンであり、日本の大手の自動車メーカーには既に70%から80%の率で普及しております。今後は、欧米の自動車メーカー及び日本の部品メーカーへの普及が進むと考えられ、これらも当社の主力製品として販売増が見込めます。



### ロボットガン

本ガンは、従来型の空気圧方式のガンですが、ロボットなどの複雑な制御を必要としないため、これから自動化をはじめようと考えているメーカーには好評であります。中国、東南アジア各国などの自動化の進展に伴い当社の標準シリーズは、信頼性、製品のバリエーション等により高い評価を得ています。



### ポータブルガン

本ガンは、人間がマニュアルで操作するガンで、日本においては、サブ工程や、バックアップ工程に良く使われています。一方、海外のノックダウン工場などでは依然主力設備として使われています。当社グループの製品は、高い信頼性と軽量小型化による良好な作業性により人気を博しております。



### コイル溶着ガン・スタッドガン

本ガンは、大量生産用設備(マルチ設備など)に対応するガンであります。日本の自動車は多品種少量生産であると言われるものの、車体の共通化などにより、部品レベルの製品では大量生産も多く、また自動車以外の業界でも金網等の多量生産品にたいし、効果的に活用されており、需要の掘り起こしが見込める製品であります。

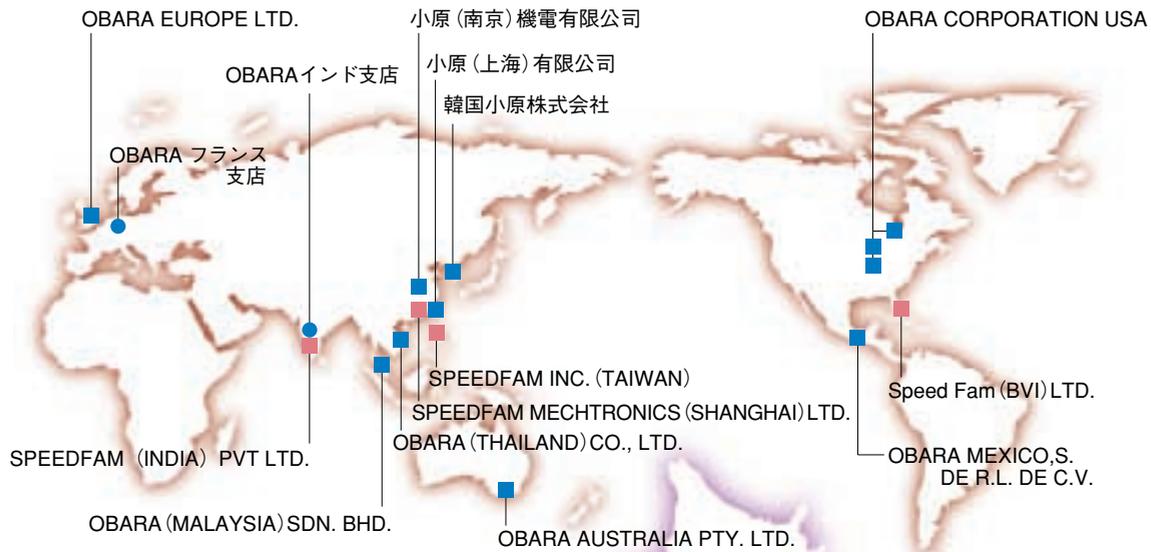


### PSウェルコム

本ガンは、トランス内蔵型のポータブルガンで、省エネルギー効果が高いため、東南アジアを中心に人気の高い商品であります。一方製品コンセプト上、重量、サイズとも大きいため作業性との両立に工夫が必要ですが、当社グループ製品は高い性能を持ちつつ、作業性を確保している製品として人気を保っております。

# グローバル・ネットワーク

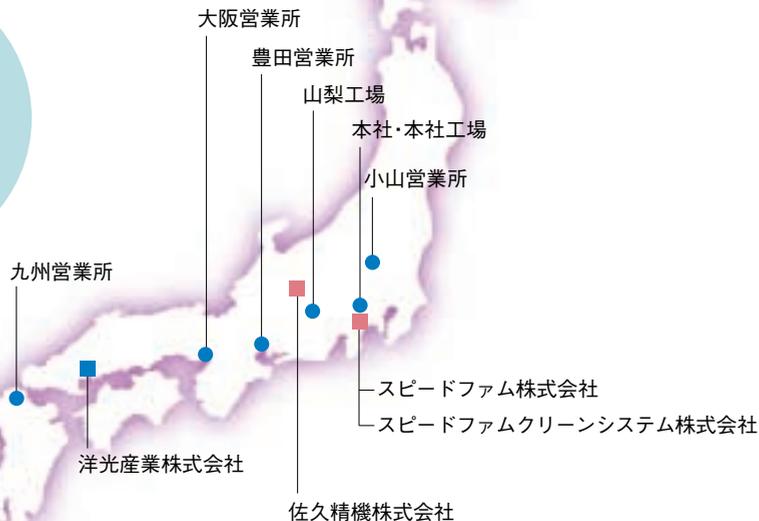
[主要な事業所及び関係会社]



- 当社事業所
- 関係会社

<事業区分>

- 抵抗溶接機器関連事業
- 平面研磨装置関連事業



# 会社概要・株式の状況

## 会社概要 (平成15年9月30日現在)

### ■ 会社概要

社 名：OBARA株式会社  
 英 文 名：OBARA CORPORATION  
 本店所在地：神奈川県綾瀬市大上4丁目2番37号  
 設 立：1958年12月  
 資 本 金：1,450,449,120円  
 主要な事業内容：抵抗溶接機器・各種溶接機器の製造販売等  
 従 業 員 数：312名

### ■ 役員

代表取締役会長	小 原 博
代表取締役社長	春 名 邦 芳
専務取締役	持 田 律 三
常務取締役	中 川 直 樹
取締役	渡 辺 俊 明
取締役	服 部 宏
常勤監査役	谷 内 博
監査役	中 根 宏
監査役	久保寺 吉兵衛

(注) 監査役中根宏氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

### ■ 事業所

- 本店・本社工場 〒252-1104 神奈川県綾瀬市大上4-2-37
- 小山営業所 〒323-0807 栃木県小山市城東2-7-22
- 豊田営業所 〒471-0834 愛知県豊田市寿町7-37
- 大阪営業所 〒563-0043 大阪府池田市神田3-11-14
- 九州営業所 〒800-0233 福岡県北九州市小倉南区朽網西1-9-3
- 山梨工場 〒406-0853 山梨県東八代郡境川村藤壘4151
- インド支店 A-3, 2nd Avenue,  
Anna Nagar East, Chennai, 600 102 India
- フランス支店 Rue Raoul, Follereau. Chemin  
Des Allies 59300 Valenciennes, France

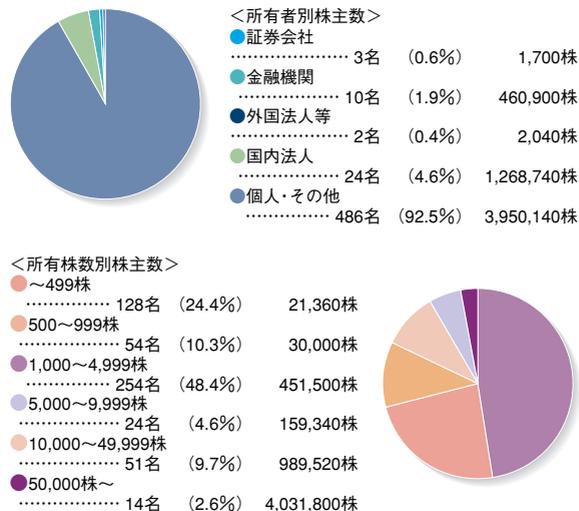
## 株式の状況 (平成15年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数 20,821,600株  
 発行済株式総数 5,683,520株  
 株主数 525名  
 (前期末比1名増)

### 大株主 (上位10名)

株 主 名	持株数(株)	議決権比率(%)
小 原 博	1,181,440	20.79
有限会社馬込興産	1,110,320	19.54
OBARA従業員持株会	471,540	8.30
小 原 康 嗣	341,040	6.00
株式会社UFJ銀行	274,000	4.82
清 水 真 弥	90,920	1.60
久保寺 吉兵衛	90,840	1.60
小 原 範 子	90,240	1.59
春 名 邦 芳	80,820	1.42
O B A R A 共 栄 会	65,000	1.14

### 株式分布状況



## 株主メモ

決算期 毎年9月30日

定時株主総会 毎年12月

基準日 毎年9月30日

その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

配当金受領株主確定日 毎年9月30日および中間配当金の支払いを行う場合は3月31日といたします。

名義書換代理人 〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号

中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱所 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

(証券代行事務センター)

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

電話 (03)3323-7111 (代表)

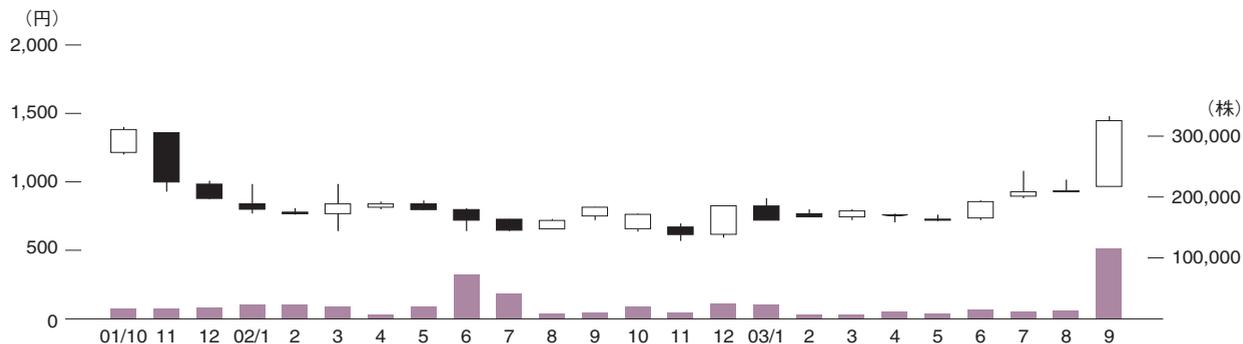
同取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店

日本証券代行株式会社 本店、および全国各支店

公告掲載新聞 日本経済新聞

ただし、商法特例法第16条第3項に定める貸借対照表および損益計算書に係る情報は、当社ホームページ (URL <http://www.obara.co.jp/>) において提供します。

## ■ 株価・売買高の推移



## JL OBARA株式会社

この事業報告書に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

神奈川県綾瀬市大上4丁目2番37号

管理部 TEL. (0467) 76-2000

●ホームページ <http://www.obara.co.jp/>